

## 新型コロナウイルス感染症を乗り越え、新年度へ

上田 克彦

公益社団法人日本診療放射線技師会 会長

2024(令和6)年は能登半島地震で始まり、その被害は時間の経過とともに深刻さを認識することになりました。会員をはじめ関係団体の皆さまからの義援金を頂いておりますので、被災された会員へお届け致します。

さて、新年度は新型コロナウイルス感染症への医療における特例措置が全てなくなり、通常医療に戻ることから始まります。一方、まだ感染者がいなくなったわけではありませんので、場面に応じて適切な感染対策をお願い致します。診療放射線技師は新興感染症対策のためワクチン接種の打ち手となったことはすでにお知らせしておりますが、この接種のための研修についても検討しております。なお、この研修は告示研修を修了された方のみが対象となります。

新年度に向けての明るい兆しは、3月号巻頭言でもお知らせしたように賃上げのための診療報酬改定です。各医療機関で処遇改善についての交渉をお願い致します。

2024年度の事業計画を理事会で承認いただきました。2024年度のスローガンを昨年度と同様に「期待される診療放射線技師の役割に応えよう」として、10項目の重点事業を紹介致します。1.「タスク・シフト/シェア推進」告示研修修了者が2万人を超えました。先行してタスク・シフト/シェアを実践している好事例を参考に、進めていきたいと考えています。2.「政策要望に効果ある調査活動の在り方検討」これまでの業務統計を診療放射線業界に還元できる政策とするために分析を行います。3.「性腺防護シールド廃止の周知」本会、日本医学放射線学会、日本放射線科専門医会・医会、日本放射線技術学会と共同で声明を发出致します。4.「組織率向上の方策と実施」会員数は堅調に増加しているものの、目標である組織率70%にはまだまだ遠い状況です。4月から会員はe-ラーニングを無料で受講できるなど、新たなサービスを実施致しますので、会員の皆さまからも周知をお願い致します。5.「職域団体・全国診療放射線技師教育施設協議会との連携強化」職域団体と教育に関する団体とは別途懇談会を実施し、より実践的な協力体制を構築します。6.「地区、地域との連携強化」本会と各都道府県(診療)放射線技師会および地域の課題を解決していきます。7.「分科会、委員会組織の見直し」例年と同様に分科会、委員会の役割に応じて整理していきます。8.「生涯教育制度(ラダー)の推進およびe-ラーニング学習無料化」ラダーの周知を進め、その意義を本会以外にもご理解いただくようにします。9.「第40回日本診療放射線技師学術大会(第1回日本放射線医療技術学術大会)実施および第41回日本診療放射線技師学術大会準備」第40回は沖縄県で開催、第41回は福井県で開催致します。10.「国際事業を通じてISRRTを支援」6月に香港でISRRT世界大会が開催されます。多くの会員参加を期待しています。

これらの重点項目を実現するためには、会員一人一人の積極的な参加と協働が必要です。会員および他団体とも相互理解と信頼を深め、放射線診療全体が一致団結して新しい年度を迎えたいと思います。会員の皆さまのご理解とご協力をお願い致します。

